

巻頭言

理事長 宮田 和実

早いもので、二〇一九年度も半分が過ぎました。

この半年、公私ともに、いろいろなことがありました。

社会的には、何といっても、三十年余り続いた平成が終わり、令和という時代になったことだと思えます。

各種書類の日付も、令和元年（或いは一年）と書くべきところなのでしょうが、四月までは、平成三十一年としなければならず、紛らわしいので、小生は、西暦表記を使っています。お気づきのことと思えますが、みみより誌もこれを採用しています。

世間では、令和という言葉の出典から、万葉集が注目されているようです。万葉集は全て漢字で書かれています。これは、万葉仮名で、漢字の意味に関係なく、読み方だけを使って、日本語の音を文字

として表したもので、仮名(カタカナ、ひらがな)のなかった時代の日本人の知恵なのでしょう。いずれにしても、漢字仮名混じり文で育った我々にとっては、読むのが大変なことに変わりはありません。

万葉集に収められているのは、和歌ですが、最近では、テレビの影響でしょうか、俳句の方が盛んなようです。しかし、俳句は、和歌から発展したもので、始めたのは正岡子規といえますから、和歌に比べて、歴史は、はるかに短いと断言します。

みみより誌が、いつごろから、俳句と繋がったかは、定かではありませんが、みみより俳句が、これからも、益々盛んになることを祈っています。

さて、話を戻して、この半年、本当にいろいろなことがありました。

この夏は、早くから、猛暑日が続き、熱中症で倒れる人が相次ぎました。台風

が多いのも例年にないことのようにです。強い勢力のまま上陸し、多くの被害をもたらしました。

さて、みみより会でも、この半年、いろいろなことがありました。五月の総会で、古くからの役員が多数引退して、新しい役員が就任しました。それぞれ、他の団体などで活躍されていた才能豊かな方々なので、早速、みみより会に新風を吹き込んでくれました。様々なサークルの誕生も、その一つではないでしょうか。体の衰えを感じて、自宅に引き籠もっている皆様も、好きなジャンルのサークルに、気軽にお出かけになってみてはいかがでしょうか？ 数年は若返ることと思えます。

小生個人としましては、理事長として、また、みみより誌の編集長として、全身全霊をかけ、みみより会のために、粉骨碎身頑張っていこうと、半年近くが過ぎ、気持ちを新たにしているところです。

みやた × ×
かづみ(栃木県那須塩原市)